

白峰のはじまり

白峰に人が住み始めるのは、隣の桑島において縄文時代中頃の土器が出土していることから、その頃の可能性があります。詳細はよくわかっていません。平安時代中頃には加賀、越前、美濃の三馬場がそれぞれ白山信仰の拠点となり、そのなかでも越前馬場が主導権を握っていました。白峰は白山へ登る登山道からは外れていたため、白山信仰との深いつながりはなかったようです。白峰は昔、牛首くうしきひ」と呼ばれていました。八坂神社に現存する十二神将像の製作年代が鎌倉時代と推測されており、この頃には既に村があったと考えられます。

大庄屋・天領の時代

白峰(牛首)が最初に古文書にあらわれるのは、戦国時代の中頃です。当時、白峰を治めていたのは加藤藤兵衛で、この頃になると白峰は、越前馬場の平泉寺と共に、白山山頂の社殿や登山道である禅定道の管理、道案内等を務めていました。藤兵衛は慶長6年(1601)、越前国守により白山麓十六ヶ村を取りまとめる大庄屋に任命され、これ以降、明治に至るまで、白山麓上流部の中心地として栄えることになりました。藤兵衛は年号岩(右写真)に刻まれているように元和3年(1617)、現在でもミンジャとして使用されている水路を開削し、飲料水や生活水を確保する事に成功しました。特に湧水の無い北半の開発は、これを契機に進められたと思われま。また、白山の利権を巡る加賀・越前・美濃の三馬場の争いが絶えず、その解決策として、寛文8年(1668)、白山麓十六ヶ村に尾添、荒谷の二つの村を加えた白山麓十八ヶ村が幕府の直轄地・天領とされます。しかし、延宝元年(1673)、加藤藤兵衛は白峰を追放され、その後の大半の期間を山岸家が大庄屋を務める事になります。

白峰の主な生業

白峰は手取川と大谷合川の合流部の狭い河岸段丘上に立地し、周囲を山々に囲まれた豪雪地帯で、稲作はほとんど行われていません。文久3年(1863)の白山麓の産物には、ヒエ、アワ、養蚕、織物、林産物とその加工品があげられています。明治期には、生糸、繭、ヒエの生産が多く、焼畑で栽培されたヒエを主食とし、養蚕による収入により生活に必要な日用雑貨や、海産物を手に入れていたようです。明治中頃までは全国屈指の一戸当たりの養蚕生産高を誇っており、豊富な林産資源や、白山信仰に伴う活発な経済活動が、さまざまな商売や、商品を生み出していました。明治33年の紀行文には、「白峰は、製糸業が盛んで、警察分署、登記所、宿、料理店、雑貨店、飲食店、呉服屋、芸妓、娯楽の施設など様々な施設がある。」と書かれています。

白峰の町並み

町並みの最大の特徴は、山村でありながら建物が密集し、町場のような景観を形成していることです。白峰の家数は、元禄11年(1698)「十八ヶ村高小物成帳」によれば233、宝永7年(1710)「白山道記」、文政13年(1830)「白山全上記」には共に約300と記載されています。嘉永3年(1850)「白山麓十八ヶ村留帳」では480で、そのうち季節作り200、永久作り180とあり、白峰に家を構えていたのは永久作りを除いた300で、そのうち200は、冬のみ住んでいたこととなります。昭和31年には270戸になっています。このように、18世紀初頭に300戸の家が建ち並んでいた状況は明治期まで続き、大正期から戦前にかけて1割程減少して現在に至っています。1670年頃の「高免付給人帳」によれば、白山麓の古岡5戸、山麓と扇状地の結節点で六斎市が開かれていた鶴来村66戸、扇状地の中核村落である宮永33戸、扇状地の一般村落である中新保5戸とあることと比較すれば、233戸という白峰の戸数は大変多く、白山市域では松任町(松任町は383戸だが7町に細分されている。)に次ぐ規模を誇ります。この人口を支えていたのは、山の恵みである養蚕・木材や、織物、白山参詣に伴う経済活動でした。

白峰の伝統的民家

伝統的民家の特徴は、厚さ15～18cmの分厚い黄土色の土壁と、縦長の窓です。このような外観は天保4年(1833)の「続白山紀行」においても確認できます。屋根に降り積もる日本屈指の豪雪地帯の重い雪に耐えるため、半間隔に柱が配置されることが多く、窓は半間幅となるのです。今は二階も居住空間となつたため、大きな窓に改修されたものが多くあります。薪等の搬入のため、玄関の二階部分に大背戸(おおせど)といわれる出入口を設けていることや、今は少なくなりましたが、屋根の管理のため、年中大梯子を屋根にさしかけておくのも特徴的です。また、敷地が狭く雪が多いため、ほとんどの家には塀や庭がみられず、土蔵についても限られた家しかありません。



③ 林西寺白山下山佛

TEL.076-259-2041
開館/8:30～16:00
参拝費加金/
一般:400円
(団体350円)
小中学生 200円
休館/火曜
※明治の神佛分離令により
山頂から下ろされた白山の
御本尊八体を安置。
(重文 十一面観音立像)



⑦ 雪だるまカフェ

TEL.076-259-2071
営業時間/10:00～16:00
休 業 日/火曜・1月～3月
※ 古民家を活用したカフェ



特産品販売施設 葉さい

TEL.076-259-2588
営業時間/10:00～17:00
休 業 日/火曜(祝日の場合は翌日)
※ 観光案内所併設



白峰温泉総湯 TEL.076-259-2839

営業時間/平日 正午～21:00
土日祝 10:00～21:00
休 業 日/火曜(祝日の場合は翌日)
入 浴 料 /一般650円・小学生350円、3歳以上250円



② 与平

TEL.076-259-2129
NPO 白山しらみね自然
学校の事務所として活用。
白峰の生活・文化・自然体
験・白山登山等のプロ
ラムの企画やガイドを実
施。屋内で民具、囲炉裏地
下貯蔵庫の室も見学でき
ます。要予約



⑥大庄屋山岸家



白山ろく民俗資料館 TEL.076-259-2665

開館時間/9:00～4:30 休 館 日/木曜・祝日の翌日・冬期
入 館 料 /一般260円・65歳以上又は団体200円・高校生以下無料



「あのにや、
いっぺんじげ(白峰)に
ござらっしゃね。
待ちよるわいよー」
白峰ゆるぎやら
はくさん より

重要伝統的建造物群保存地区

石川県白山市

しらみね

白 峰

発行 白山市文化財保護課076-274-9579

交通のご案内

◎福井北から約1時間

◎白山ICから約1時間

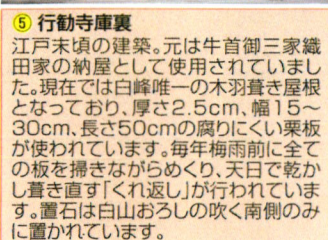




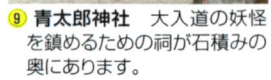
11 南番の大きな石横



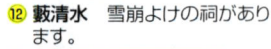
行動寺本堂向拝の礎石
文化6年の刻字があります。



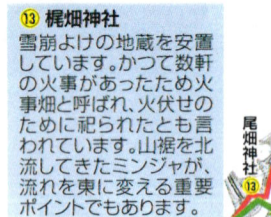
5 行動寺庫裏
江戸末頃の建築。元は牛首御三家織田家の納屋として使用されていました。現在では白峰唯一の木羽葺き屋根となっており、厚さ2.5cm、幅15～30cm、長さ50cmの腐りにくい栗板が使われています。毎年梅雨前に全ての板を掃きながめくり、天日で乾かし置き直し「くれ返し」が行われています。置石は白山おろしの吹く南側のみに置かれています。



9 青太郎神社 大入道の妖怪を鎮めるための祠が石積み奥にあります。



12 藪清水 雪崩よけの祠があります。



13 梶畑神社
雪崩よけの地蔵を安置しています。かつて数軒の火事があったため火事畑と呼ばれ、火伏せのために祀られたとも言われています。山裾を北流してきたミンジャが、流れを東に変える重要ポイントでもあります。



孫左衛門の墓
木戸口家紋



林西寺本堂の大梯子



3 林西寺本堂
文久3年、永平寺の名工玄之源蔵、源左衛門を棟梁とし、牛首御三家の木戸口孫左衛門が願主となり、白山麓18ヶ村の総坊として建築され、境内を取り巻く石垣も、孫左衛門家から移設されました。元は木羽葺き屋根でしたが、大正13年、車道が無かったため、15km下流の鳥越白山下から人力で瓦を運び葺き替えています。境内は学校の運動場に次いで広く、かつては盆踊りや白山まつりの会場としても利用され、役場庁舎・公民館が建てられる昭和23年頃までは、村の会合、演説会等はすべて本堂で行われていました。



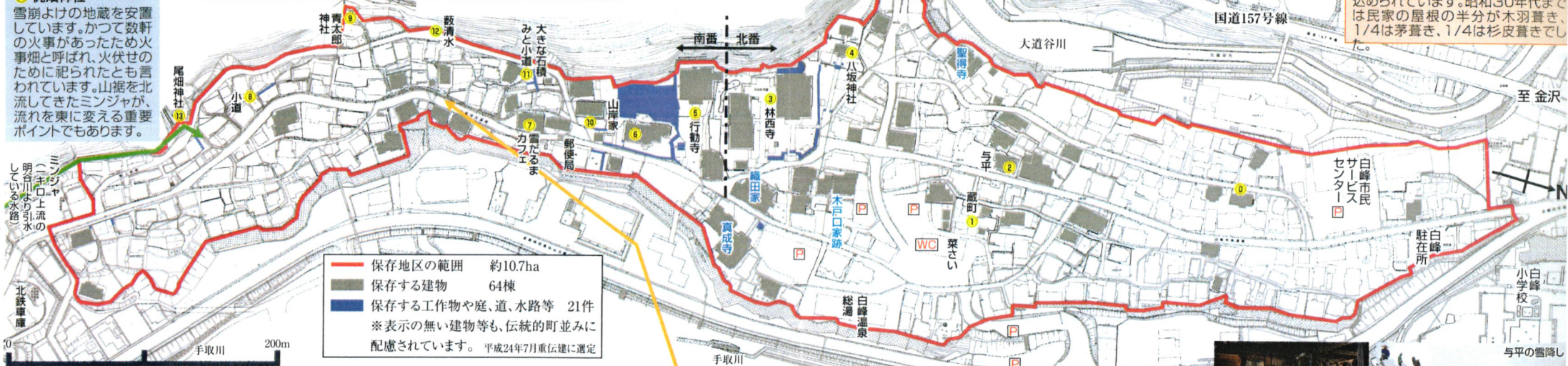
4 隣接する八坂神社と林西寺
八坂神社は、牛頭天王を祀り、薬師如来を安置した薬師堂が起源とされ、その本殿は文政5年に、永平寺大工玄之源左衛門を棟梁として建築されています。秋の例大祭には、奉納相撲で賑わいます。林西寺と隣接しており、神佛習合時代の名残りを良く残しています。



1 蔵町
白峰は土蔵の少ない地域ですが、蔵町と呼ばれる蔵が数棟集まった場所が一ヶ所あり、火除け地としての機能も兼ね備えています。家が密集するため、かつては昼夜問わず10回以上もの火の用心の巡回をしたそうです。西側を走る幅2m程の道は、近世の幹線道路、加賀往來をそのままの幅で残しています。



0 杉皮の残る貴重な民家
昭和7年の建築。かつては、屋根の野地板の上に土を乗せた木羽葺で、棟は杉皮で覆われ、小屋根のついた煙出しもありました。昭和36年の竜巻で屋根が壊れたため瓦葺きになっています。土壁は杉皮(白峰で唯一)、縦板で保護され、80数年もの長きにわたり、修理する必要がなかった程丈夫な土壁でした。仏壇のある場所は、その上を人が踏まないようにと、二階を設けない平屋となっています。また、多くの家には南天が植えられており、これには「難を転ずる。」という願いが込められています。昭和30年代までは民家の屋根の半分が木羽葺き、1/4は茅葺き、1/4は杉皮葺きでした。



雪だるまカフェ西面



8 小道
行動寺以南を南番(みなはん)、林西寺以北を北番と呼びます。南番は、西から東へ向かって傾斜しているため、宅地は石積みによって造成され、東西に走る小道も河原石の石段として、あちこちに残されています。右の白黒写真は、昭和30年頃の青太郎神社へ登る小道です。現在は残念ながらコンクリートとなっています。



7 雪だるまカフェ
山岸十郎右衛門家の分家山岸十郎左衛門の家として幕末頃に建築。2、3階では養蚕が行われ、玄関の上には新等の煙入口・大背戸がみられるのが特徴的です。家の裏側にあたる西面(左上写真)は、当初の土壁や伝統的な縦長の窓が今でも残っています。今は古民家カフェとして活用されています。



南番 白山往來の町並み



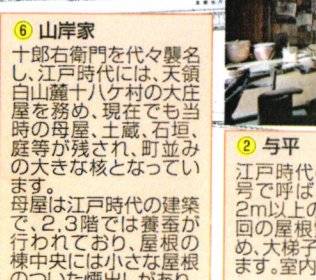
5 行動寺のドンド(水汲場)
冬にはドンドが雪で埋まらないように小屋を建て、水路には丸太の蓋をし、生活用水を確保していました。



6 大庄屋 山岸家



8 山岸家の水舟
ミンジャからの水を溜めた貯水槽。天保12年の刻字がみられます。



2 与平
江戸時代の建築。「与平」と屋号で呼ばれています。冬には2m以上の積雪があり、年に数回の屋根雪落ろしが必要のため、大梯子が年中かけられています。室内見学可。裏面参照。



昭和30年中頃の白峰北番の町並み
茶色の土壁が特徴的で、このような町並みにもいくつか、保存地区の方針です。